

【災害関連の支援金報告】

岡山県倉敷市真備町 真備かなりや保育園 (2018/10/29 訪問)

この度の豪雨災害で被災された方におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

全国で皆さんからお寄せいただいた支援金を、平成30年7月豪雨で1階部分が完全に浸水した真備かなりや保育園に届けてきました。園長先生より「子どもたちのために有効に使わせていただく」とお礼をいただきました。被災後、保育園自体は被災を免れた2階部分を使用しての保育でしたが、1階部分の保育室・給食室の修復が終わり、3日後の11月1日より、被災前と同じような保育を再開するとのことです。子どもたちは被災前の8割が戻って来ようようです。



▲修復された1階部分。被災前と同じように復元し、子どもを受け入れるとのこと。

園長先生から「建物は修復が進んで保育が始められるが、情緒不安定な子どもや発達の気になる子ども

もが増えたり、おとなしかった子どもたちが急によく喋るようになったりと、子どもたちの姿が変わってしまったことに驚いている。保護者も災害当初は頑張っただん張っていたが、最近になって体調に異変が出ている方が多くなってきている。園として、保育士として、話を十分に聞くことを心掛けているが、私たち自身が心を壊さないように注意しないといけない。」とのこと。

今回の豪雨災害は真備町という比較的限定的な土地で起こったため、特に保護者は、真備町外の地域や職場で被災の辛さを共感する相手がおらず、苦しんでおられる方が多いという話がありました。また、真備町内でも、被災した家庭と被災しなかった家庭との間で、加えて、1階まで浸水した家庭と2階まで浸水した家庭との間で、心のわだかまりが生じている現状を教えてくださいました。

「よく『心の復興』という言葉を目にしていたが、自園が被災して日常に戻るまで、あと10年くらいはかかるような見通ししている。11月から多くの子どもたちとご家庭が戻ってくるので、“同じ立場で被災経験を語り合う仲間がいる”と前向きにとらえて、子どもたちや保護者と向き合っていきたい」と園長先生が話されていることが印象的でした。

(岡山保問研 入江慶太)